

～教員おすすりめ本～

No. 17

薬学部 医療薬学科

川崎 直人



『在宅医療をはじりめよう！』

医療をりる、地域をりる、文化をりる』

永井康德、永吉裕子 著

こしのりょう 作画

矢野道子 作画（協力）

【先生からのコメント】

我が国の65歳以上の高齢者数は、2042年には3,878万人となると予測されています。国策としては、在宅医療・介護の推進が進められており、住まい、医療、介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた努力がなされています。

本書では在宅医療について、理念、システムおよび制度の面からすべての読者に判りやすく解説したものです。特に、医療従事者が連携して多職種の医療チームを作り、在宅医療に対してどの様に携わることができるのかを理解できると思っています。



『ひとめでわかるのんではいけない薬大事典』

浜六郎 著

【先生からのコメント】

国民医療費は増加の一途を辿っており、使用される医薬品の種類や数も多くなっているのが現状です。さまざまな疾患を治療するためには、最適なクスリを選択することが最も重要となります。しかし、クスリは反対から読むと「リスク（危険）」となりますので、それぞれのくすりの副作用を十分に理解しておくことも必要です。

本書では抗炎症解熱剤、抗がん剤、降圧剤などの必要性や危険性に関する情報について、簡単で判りやすく分類して解説されています。医師向けのくすりのみならず、市販品も収録されていますので、くすりに関する知識を身に付けることができると思っています。

2017年10月27日

近畿大学中央図書館